

優良県有種雄牛「糸晴清」「信菊徳」の作出

平成8年度産肉能力検定（直接法）で選抜された候補種雄牛8頭について、平成11年度に同検定（間接法）を実施し遺伝的産肉能力を推定した。

その結果、2頭の候補種雄牛の検定成績が特に優れていたことから、凍結精液の供給を開始した。

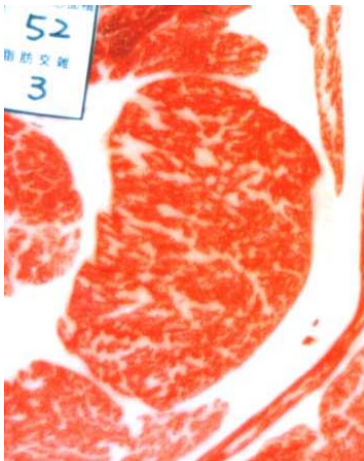
【間接法成績の概要】

糸晴清は皮下脂肪厚及びロース芯面積で良好な値を示し、信菊徳はロース芯面積・皮下脂肪厚で平均を下回ったものの、日増体量に優れた。

脂肪交雑は糸晴清2.8、信菊徳2.9と両牛とも優れた成績であった。

表1 「糸晴清」「信菊徳」間接検定成績(kg、cm²、cm)

項目	糸晴清(n=8)	信菊徳(n=7)	全国平均(n=498)
日増体量	0.91	0.96	0.92
枝肉重量	377	382	354.0
枝肉歩留り	61.0	60.3	59.7
ロース芯面積	53	45	48
皮下脂肪厚	1.7	2.2	2.0
バラの厚さ	6.2	6.2	6.4
推定歩留	74.2	72.8	73.6
脂肪交雑	2.8	2.9	2.6
枝肉格付	A5:5, A4:3	A5:5, A4:1, B5:1	A5:45% A4:35%



糸晴清：調査牛 5



信菊徳：調査牛 8

【産肉能力の特徴】

これらの種雄牛における産肉能力の特徴は脂肪交雑が入り易い点であり、**上物率**（4等級以上割合）は2頭とも**100%**で、全国の80.1%を上回った。

一般肥育においても、良い結果が期待され、糸晴清は現場でも好成績を示している。

【現場肥育成績の概要】

判明している糸晴清産子の現場肥育成績では、BMSの平均が7.6（出荷月齢26.3ヶ月）と優れ、**脂肪交雑の推定育種価**は+2.8で、**北国7の8に比肩する値**である。

また、**信菊徳の母牛は脂肪交雑の育種価**が+4.6と**県内雌牛中トップ**であり、その産肉能力に大きな期待が寄せられている。

表2 糸晴清の現場肥育成績（H13.3.9現在）

性別	出荷月齢	母の父	感方祖父	枝肉格付	枝肉重量	ロース芯	バラ厚	脂肪交雑(BMSNo)
雌	27	幸照	由福	A-5	350	45	7.2	4 (11)
去	24	福神	大照	A-5	366	51	6.6	4 (11)
去	26	菊安	栄高	A-5	372	45	7.2	3- (9)
去	26	正福	茂重波	A-5	399	57	7.5	2+ (8)
去	27	源吉雄	賢晴	A-5	416	54	7.4	2+ (8)
去	27	健経	菊谷	A-4	416	49	7.9	2 (7)
去	26	谷秀	王将	A-4	384	45	7.4	2- (6)
去	27	安金	寿高	A-3	447	59	7.7	1 (4)
去	27	安波	福昌	A-3	405	50	7.9	1 (4)

データは全て（社）岩手県肉牛生産公社での肥育成績